

研究内容の説明文

研究課題名	献血検体由来アクセサリーファクターを使用したトキソプラズマ色素試験の検査精度調査とその実施
研究期間	平成 27 年 11 月～平成 29 年 11 月
研究機関名	東京慈恵会医科大学
研究責任者職氏名	保科斉生

研究の説明

1 研究の目的・意義

原虫感染症であるトキソプラズマは免疫低下、抑制患者で重症感染症を引き起こし、診断に苦慮することの多い疾患です。トキソプラズマ色素試験は疾患活動性が評価可能であり、検査法のゴールドスタンダードとされています。しかし、原虫の生理活性を測定するため、検査系と評価方法が複雑です。そのため国内で実施可能な施設は現在ありません。検査に必要な試料の一つに健常人から得られる血漿成分＝アクセサリーファクター（AF）があります。トキソプラズマ未感染健常人 6 人から 10 人に 1 人の割合で保有者が存在するとされています。当講座では AF 以外の検査に必要な試料を揃えており、色素試験を行うにあたり準備を整えています。現在行っている当施設職員ボランティアを対象としたアクセサリーファクター検索と合わせて、より侵襲の少ない、安定した AF 確保を試みるのが目的です。

2 方法《献血血液の使用方法含む》

いただいた献血血液に対してトキソプラズマラテックステスト、トキソプラズマ IgG, IgM の測定を行い、トキソプラズマ未感染血液を選別します。原虫と血液の反応を観察し、AF 保有血液を選択します。それをを用いて、既知のトキソプラズマ急性期血清に対し色素試験を行い、妥当性の評価を行います。さらに、臨床検体を対象とした色素試験で、ボランティア血清を使用した AF との性能の比較を行います。

3 予測される研究の成果等

比較的量が確保可能な献血血液から得られた AF を使用することで、均一化された色素試験を行うことが可能になります。また、AF 収集を目的とした侵襲的な手技（採血）が新たに必要とならないため、色素試験の安定した実施に寄与すると考えられます。

4 血液の廃棄と保管

献血血液は全て当講座のフリーザーに保管されます。確保した AF はその後の臨床検査の試薬として用いるため保管されます。保管期間は、検査精度に影響する品質低下を認めた時点、または 5 年間とし、いずれか遅い方の期日で廃棄します。

受付番号 28J0044

本研究に関する問い合わせ先

所属	東京慈恵医科大学 熱帯医学講座
担当者	保科斉生
電話	03-3433-1111（内線 2286）
Mail	tohoshina@jikei.ac.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。